

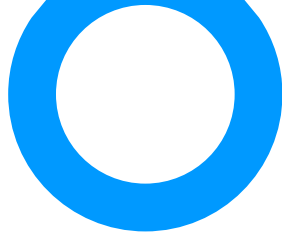
第77回接続政策委員会 事業者ヒアリング資料

# IP化やメタル縮退を踏まえた 音声伝送役務に係る 接続ルールの在り方について

Coltテクノロジーサービス株式会社

2026年1月21日

# Agenda



1. 当社概要
2. 当社の基本的な考え
3. 各論点に関する当社意見
  - (1) メタル回線設備の接続料算定におけるLRIC方式の継続について
  - (2) 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について

# 当社概要 (1/2)

Coltテクノロジーサービス (2026年1月21日現在)

## (英国本社)

- 社名：Coltテクノロジーサービス
- 本社所在地：英国ロンドン市
- 設立年：1992年
- 代表者：最高経営責任者(CEO)：ケリー・ギルダー (Ms. Keri Gilder)
- \* Coltの名称は City of London Telecommunications
- 従業員数：約6,000人 (2025年5月現在)
- 事業所数：全世界で80以上の事業所
- 売上：非公開企業の為非公表。

## (日本法人)

- 社名：Coltテクノロジーサービス株式会社
- 本社所在地：東京都港区六本木
- 設立年 1999年 (KVH株式会社として設立)。
- \* 2014年12月、Colt Group S.A.がKVH株式会社の株式を100%取得し、2015年8月にColtグループとしてのブランド統一に伴いColtテクノロジーサービス株式会社に社名変更。
- 代表者：代表取締役 大江 克哉 (おおえ・かつや)
- 従業員数：約500名 (2025年5月現在)
- 顧客社数：約2700社以上 (アジア地域のみ)
- 営業拠点：東京、大阪、シンガポール、香港、ソウル
- 売上：次ページに2024年度。

## 当社概要（収益等の数値）（2/2）

2024年（1月～12月）

単位：円

営業収益

電気通信事業

営業費用

電気通信事業

営業利益

電気通信事業

備考

- 電気通信事業以外の事業は無し。
- 「データサービス」と「音声サービス」の収益額及び利用者数比率は約

# 当社の基本的な考え

## 1. メタル回線設備の接続料算定におけるLRIC方式の継続について

- メタル回線の縮退が進む中でも、光回線への移行過程で接続料の合理性を担保するためにはLRICの継続が望ましいと考えます。
- 当社が提供する法人向けサービスでは、特に、高品質・高信頼性が求められるため、NTT東西のコスト構造の明確化は重要です。

## 2. 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について

- 当社は法人顧客のみを対象とし、高品質・高信頼性の音声サービスを提供することがIP化後も、依然として重要です。（例えば、コールセンター向けソリューションの提供が採算に合わなくなる可能性があります。）ビル&キープ方式は、トラフィック量が少ないキャリアは接続料収入がインフラの高度化のための唯一の原資であり、大規模事業者と競争するには不利となります。
- その結果、競争環境や加入者向けの料金体系に影響を与えます。
- ビル&キープ方式の原則化は、品質低下や投資停滞につながるため、断固反対します。当社が提供する法人向けの高品質サービスは、継続的な設備投資によってのみ維持されます。

# 1. メタル回線設備の接続料算定におけるLRIC方式の継続について（1/2）

論点 1	ヒアリング項目	当社意見
加入電話の加入者が一定程度残る2035年頃までの間の接続料の算定方式	メタル回線設備が縮退する見込みであることを踏まえ、引き続き、LRIC方式を接続料算定に適用するべきかどうか。	2021年9月の接続制度整備に関する最終答申において、IP網移行後も、メタル回線設備について非効率性の排除の観点からLRIC方式が継続して採用されました。非効率性排除が担保されることが明確とならない限り、原則としてLRIC方式を引き続き適用すべきと考えます。
	LRIC方式を廃止する意見に賛同する事業者に対し、 <ul style="list-style-type: none"><li>• 直ちに廃止すべきか又はまずはLRICモデルの運用プロセスの簡素化を図るべきか。</li><li>• 廃止後の接続料の算定方式（実績原価方式、ビル&amp;キープ方式等）はどうあるべきか。</li><li>• 廃止により事業運営にどのような影響を及ぼす可能性があるか。</li><li>• 事業運営への影響を踏まえてどのような措置（激変緩和措置等）が必要と考えるか。</li></ul>	上記回答の通り、原則としてLRIC方式を引き続き適用すべきと考えます。

## 1.メタル回線設備の接続料算定におけるLRIC方式の継続について（2/2）

<b>論点2</b> 裁定方針第3項における、有効と認められるデータ提供が行われない場合のLRIC方式の利用	<b>ヒアリング項目</b> LRIC方式を廃止した場合、裁定方針第3項において、有効と認められるデータの提供が行われない場合には、例えばLRIC方式を用いることとしている点をどうするか。	<b>当社意見</b> 前述の回答の通り、原則としてLRIC方式を引き続き適用すべきと考えます。
<b>論点3</b> その他	<b>ヒアリング項目</b> その他、IP網への移行完了やメタル回線設備縮退等のネットワーク環境の変化を踏まえたメタルIP電話に係る接続ルールの在り方について検討すべき事項があるか。	<b>当社意見</b> 特に意見はありません。

## 2. 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について (1/6)

論点1	ヒアリング項目	当社意見
ビル&キープ方式の 選択可能とする制度 整備後の音声サー ビスの現状	IP網への移行後の音声サービスに係る契約数及び音声トラヒックの状況。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ IP網への移行前後の音声サービスに係る契約数及び音声トラヒック において状況に特段の変化は見られません。</li><li>・ 当社は法人顧客のみを対象とし、高品質・高信頼性の音声サービスを提供することが依然として重要です。</li></ul>
	接続料の算定等に関する研究会第七次報告書を踏まえて、ビル&キープ方式の選択可能とする制度整備が実施されたが、その後のビル&キープ方式に関する検討状況。ビル&キープ方式を適用していない場合、その理由。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 当社は現時点でビル&amp;キープ方式を原則適用する接続事業者は存在しません。</li><li>・ トラフィックや取引額が小さく、精算や接続料算定のコスト（固定費）が（精算する金額より）相対的に大きい場合、二者間協議によりビル&amp;キープ方式を検討可能と考えます。</li></ul>

## 2. 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について (2/6)

論点2	ヒアリング項目	当社意見
接続料の算定等に関する研究会第七次報告書において整理された議論を進めていくべき事項についてどう考えるか	音声接続において、事業者間協議では解決し得ない問題が存在するとの指摘についてどのように考えるか。	・法人向けサービスでは、品質・信頼性確保が最優先であり、単純な価格引き下げは望ましくなく、解決策として、透明性の高い算定ルールを支持します。
	ビル&キープ方式について挙げられたメリット（自網コストの効率化、事業者間の公平性、音声接続のコスト削減、参入障壁の軽減等）及びデメリット（小規模事業者の事業継続、競争への影響、コスト回収への影響等）についてどのように考えるか。	ビル&キープ方式のメリット： 事業者間の精算業務が簡素化される等の効率化の観点から一定のメリットはあると考えます。  ビル&キープ方式のデメリット： 1. ネットワーク維持・高度化に不可欠なコスト負担の議論を回避し、品質低下や投資停滞を招きます。 2. 当社が提供する金融取引やSLA保証付きクラウド接続などの高品質サービスは、継続的な設備投資によってのみ維持されます。  ① 当社が現在提供している音声サービスは、全てがSLA保証付であり高品質である。 ② クラウド接続の音声サービスもSLA保証付で高品質である。 ③ 金融取引等に使用されている当社音声サービスを含む ④ 高品質維持には設備投資が必要である

## 2. 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について (3/6)

論点2	ヒアリング項目	当社意見
接続料の算定等に関する研究会第七次報告書において整理された議論を進めていくべき事項についてどう考えるか	海外におけるビル&キープ方式の導入に関する検討を踏まえてどのように考えるか。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 欧州においては、「Calling Party Subscriber Pays」（発信者負担）が基本であり、競争環境を維持する観点から、<u>ビル&amp;キープ方式は導入されておらず、LRIC（Pure-LRIC）方式による接続料制度が維持されています。</u></li><li>・ 欧州委員会（EC）が、完全IP化後もLRIC及び終端料金決済を維持する理由：<ul style="list-style-type: none"><li>- 公平な競争確保</li><li>- 小規模事業者のコスト回収</li><li>- 規制の安定性</li><li>- 利用者料金への影響回避</li></ul></li></ul> <p>※EUR-Lex（EUの法令等を公開する部門）のホームページより参考で次ページに詳細を記載</p>

## 2. 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について（参考）(4/6)

### 論点 2

接続料の算定等に関する研究会第七次報告書において整理された議論を進めていくべき事項についてどう考えるか

### 当社意見

#### 公平な競争確保（Unbiased Competition）

終端市場では各事業者が自社ネットワークでの通話終端において自然な独占を持ち、規制がなければ一部事業者が過大な利益を得たり、他事業者への高コスト課金を行う可能性があります。その結果、競争が歪み、中小事業者の参入阻害や新規参入者・利用者の不利益につながります。

加えて、国内間および国際間で料金水準の差があると取引コストや交易障壁になるため、EU内の単一市場が阻害されることとなります。

#### 小規模事業者のコスト回収機会の確保

LRICは「効率的事業者モデル」に基づくもので、固定費や共通費用を除いた、回収可能な真に必要なコストのみを価格設定の対象としています。

これにより、規模の小さい事業者でも、過剰な料金設定による顧客流出を防ぎつつ、適正なコストを回収して持続可能な運営が可能になります。

#### 規制の安定性（Regulatory Stability）

終端料金の一律的な統一（モバイル0.2ユーロセント／分、固定0.07ユーロセント／分）と段階的移行措置（ガイドパス）により、規制の予見可能性が高まります。

規制が安定することで、事業者の投資誘引力が向上し、効率的なネットワーク構築につながります。

#### 利用者料金への悪影響回避（Avoidance of Retail Price Increase）

一部の加盟国では現行の終端料金がすでにEU統一目標以下であり、急激な制度変更によって小売価格が上昇してしまう可能性があります。

このため、ガイドパス適用中は既存料金の据え置き・調整が認められ、消費者負担の急激な増加が抑制されています。

## 2. 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について (5/6)

論点2	ヒアリング項目	当社意見
接続料の算定等に関する研究会第七次報告書において整理された議論を進めていくべき事項についてどう考えるか	対象とすべき呼種・接続形態、特に、着信課金、国際電話等の片務的な呼種についてどのように考えるか。	着信課金、国際電話等の片務的な呼種は、ビル&キープ方式には適しません。これらの呼種のみを除外してをビル&キープ方式を導入することは、国内呼はビル&キープ方式、着信課金呼・国際呼は従来精算という二重制度に繋がり、精算プロセスが複雑化します。これは制度の簡素化というビル&キープ方式導入の主要な目的に反すると考えます。
	利用者料金に及ぼす効果についてどのように考えるか。	ビル&キープ方式導入による利用者料金の低下は限定的であり、品質劣化や障害対応遅延のリスクが大きいと考えます。また、法人顧客は価格よりも信頼性を重視するため、品質維持のためのコスト構造を守るべきです。

## 2. 音声接続料に係るビル&キープ方式の原則化について (6/6)

論点2	ヒアリング項目	当社意見
接続料の算定等に関する研究会第七次報告書において整理された議論を進めていくべき事項についてどう考えるか	仮に原則化を行う場合、我が国の接続制度における位置付けについてどのように考えるか。 仮に原則化を行う場合、影響緩和に関する措置（経過措置等）や、導入時期についてどのように考えるか。	ビル&キープ方式の原則化には反対します。
論点3	ヒアリング項目	当社意見
その他	その他検討すべき事項があるか（例：仮に原則化を行う場合、モバイル接続料における音声／データの費用配賦の簡素化が考えられるか）。	特に意見はありません。



ご清聴有難うございました。